



N.T.

キリスト教幼稚園界の展望

武 南 高 志

昭和二十九年七月現在、わが国の私立幼稚園数二八三二のうち、私の推定によればキリスト教関係の幼稚園七〇六（内、プロテスタント五三三、カトリック一七三）ということになり、全体の二四％に当る。この数字は正確とはいえないが大体的見当に違いはないと思う。しかし私がここに問題として二、三のことを挙げたが、これは主としてプロテスタント側から見てのことである。

※ 問題の第一は、キリスト教幼稚園の特質についてである。

明治の初期、海外からの宣教師は、キリスト教を伝えるため間接的伝道の一手段として各地に教育機関を設立した。これがいわゆるミッションスクールで、明治二十年頃までは非常な勢で青年子女の憧れの的であった。それが三十年代になって著しい衰え振を示して

来た。もちろん、そこには国情の推移、思想の変化などに作用されたが、然し何より直接的な原因は（一）官公立諸学校の充実整備につれて従来の光輝ある地方を失って来たこと（二）これらの学校の教師が必ずしも優秀でなかつたこと、即ち宣教師の教育的素養の欠如、彼らの中には教育事業を余りに安易に考えていたものが多くあつた、というようなことが挙げられている。

今日のキリスト教幼稚園もこれに近似した点がある。即ち、かつては間接伝道の一手段として設立されたものが、再検討されねばならぬ時になっているということである。

そこから起る問題として、キリスト教幼稚園の特質たる教会教育（宗教教育）の場として、果してどれだけ整備されているか、教員に人を得ているか、施設、設備において他に比して遜色はないかな

どが注意されている。

また間接的伝道或は教会教育を主眼として幼稚園を経営するとい
いながら、知らず知らず、または意識して教会を維持するため幼稚
園を経営するというものがなくはない。このような考え方に對して
は、教団内においても「それは教会を冒瀆するものであり、幼稚園
教育をばかにするものである」との厳しい批判の聲が起っている。

※ 第二は学校法人化の問題である。

教会附属の幼稚園は、その大部分が宗教法人の公益事業として経
営するものであり、その他関係幼稚園も大多数は非法人である。こ
れが近い将来に予定されたる私立学校本来の姿である学校法人とな
るについて問題をもっている。

その一つは、宗教法人から切り離して、独立した学校法人となる
ことによつて、この性格の変化、換言すれば教会が一貫した指導精
神をもたせられなくなりはいかないかという懸念である。この二は、
随つて、これに伴う設置基準の変更で、現在の施設を高くすること
の諸種の困難である。即ち拡張資金と施設拡充の容易でないことと
ある。教会の構内地は概して余り広くはない、しかもその多くが会
堂を保育室または遊戯室として兼用している実情であるから、これ
は直ちに増加するということは不可能にひとしい状態のところも少
くない。

※ 第三に園長の問題

キリスト教幼稚園の園長は多くの場合、牧師がこれに當つてい
る。そのことの可否が最近論議されるようになった。

過日、日本基督教団の全国者区教育委員長会議の席上で、ある教
区から「幼稚園の社会的位置が高まり、関心と期待が高まつて来た
ため、牧師が園長である場合、相当の時間と努力と神経を用いねば
ならない。これは牧師本来の任務である伝道牧会との間にアンバラ
ンスが生じたり、充分行うことが出来ないようになる。そのことか
ら牧師對して教会内に不満の起ることがある」と報告された。

その席上では、これは牧師が園長としてのタッチの仕方による、
その点を十分に考慮すべきだといふようなことで終つたが、教職員
の専門職ということが求められていることから、幼稚園が決して
序手間であつてはならないしまた牧師が本来の任務をおろそかにし
てはなおさらいけない。即ち二兎を追う者になりはしないかの懸念
が高まつて来つつある。

(日本基督教団教育委員、幼稚園専門委員)